

久喜市立郷土資料館だより

ふ え ね 笛の音 第15号



講座風景

郷土資料館では令和5年3月に歴史講座を開催しました。今回は鷲宮神社をテーマに、「鷲宮神社の文化財」、「鷲宮神社ゆかりの偉人」、「鷲宮催馬楽神楽」、「鷲宮神社の歴史」について全4回の講座を4日間に分けて実施しました。受講者の皆様からは「地元の歴史ある神社について知れて勉強になりました」、「住んでいる地の知らないことを新たに知ることが、こんなに楽しいことかとあらためて感じました」等のご感想を頂いております。

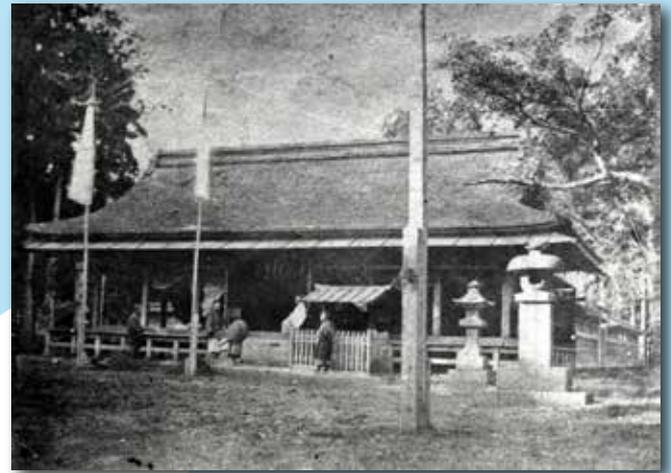
郷土資料館では古文書を学ぶ講座や子ども向けの講座など各種講座を開催しています。広報くきやホームページ等で随時募集しますので、皆様のお申込みをお待ちしています。

目 次

- スポット展「うつりゆく鷲宮神社」特集・・・2
- 文化財調査の窓
- 佐間小草原遺跡の調査写真・・・・・・・・・・ 3
- お知らせ情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

スポット展「うつりゆく鷺宮神社」特集

郷土資料館では令和5年2月25日から令和5年3月30日まで、スポット展「うつりゆく鷺宮神社」を開催しました。明治期から現代に至るまで、鷺宮神社を写した様々な写真をパネル化して展示しました。今回は展示資料の中から、5点の写真をご紹介します。



拝殿

明治時代（当館蔵）

確認されている中で、最も古い時期に写された拝殿の写真です。右手前には県指定史跡の「寛保治水碑」が見えます。



一の鳥居

明治時代後期～大正時代（鷺宮神社蔵）

大正15年（1926）まで、鷺宮神社には鳥居が二つあり、一の鳥居は現在の「鷺宮駅入口」交差点付近にありました。現在の鷺宮神社の鳥居は二の鳥居にあたります。



金灯籠

明治時代後期～大正時代（鷺宮神社蔵）

拝殿の右脇にそびえる金灯籠を写しています。文政12年（1829）に建立された金灯籠は、「お酉様の本社」として親しまれた鷺宮神社にちなんで鶏の装飾があしらわれています。金灯籠は現在、拝殿の脇ではなく、参道沿いに移されています。



徳富蘇峰参詣記念

昭和8年（鷺宮神社蔵）

徳富蘇峰は戦前に言論人として大きな影響力のあったジャーナリストです。蘇峰の側近であった相澤熙は、葛梅村（現久喜市葛梅）の生まれで、昭和8年（1933）11月に愛着のあった地元の鷺宮神社に蘇峰を招きました。

中央に写っている人物が蘇峰夫妻で、右端の見切れている人物が相澤熙です。蘇峰夫妻の左奥に写っている人物は鷺宮神社宮司の相澤正直で、相澤正直は相澤熙と親戚関係にありました。相澤正直は蘇峰を敬慕しており、境内には社号標を含め、蘇峰が揮毫した6基の石碑が残っています。



門前の様子

昭和中期（当館蔵）

神社の祭事である夏越祭が開かれる7月31日に写されたもので、門前通りを写しています。提灯が並ぶ町並みを、クラシックな車が神社の鳥居に向かって走っています。

（郷土資料館学芸員 星野 諒）

文化財調査の窓

～佐間小草原遺跡の調査写真～

栗橋地区の佐間小草原遺跡は、昭和44年(1969)の土地改良工事中に多量の板碑が発見され、当時久喜高等学校教諭であった故山本良知氏による緊急調査が行われた遺跡です。十分な準備も整えられず、正式な測量なども出来ない程の緊急的な状況下で行われた調査でしたが、山本氏は丹念に写真やメモによる記録を残していました。その時の記録は『栗橋町史 第三巻 資料編一 原始・古代・中世』(以下、『町史』)にまとめられています。

この度、山本氏の関係資料を郷土資料館でお預かりし調査している中で、昭和44年の佐間小草原遺跡調査時の写真が発見され、新たな知見が得られたのでご紹介します。

発見された写真は22枚分のポジスライドで、その内の8枚が調査現場の写真、11枚が整理作業時に撮影された遺物近影、3枚が地図や比較資料等の参考写真でした。今回は、板碑の出土状況の写真(写真1)と、かわらけの写真(写真2・3)についてご紹介いたします。

写真1は『町史』19頁下部に掲載のメモの図を上下反転させたもの(図1)に一致します。写真1に写っている

板碑の形状を元に、郷土資料館で保管している板碑を比定したところ(表1)、それぞれの板碑に付された注記番号と図1に記載されている番号とが一致することが確認できました。これにより年代のわかる板碑の同伴関係を特定することができました。

写真2・3はかわらけの写真で、それぞれ「栗橋、44-1-24-⑨、46--31」、「栗橋、44-1-24-⑨、46--9」のメモが付されていました。写真3には、かわらけに書かれた「1-24-9」という注記が確認できることから、写真に付されたメモは資料番号を示しているとわかり、それが一致する写真2・3は同一資料の写真であるとわかります。この「1-24-9」のかわらけは、図1に記載されている「1-24-⑨」の「燈明皿」と一致すると考えられることから、写真1により板碑の直上に置かれた状態で出土していることが確認できます。

この「1-24-9」のかわらけは所在不詳で、これまで確認されていなかった資料であることから、この遺跡について考察する上での新たな手がかりとなります。今後も調査を続けていく中で、新しい発見があればご紹介していきたいと思います。(郷土資料館学芸員 竹内 俊吾)



写真1 板碑の出土状況

管理番号	No. 29	No. 13	No. 12	No. 35	No. 5	No. 10
注記番号	⑩	①	②	③	⑦	⑨
和暦	文明年間	応永22年	応永21年	年不詳	応永12年	応永20年
西暦	1469～1487	1415	1414		1405	1413

表1 写真1の板碑の管理番号と注記の対応表(写真左から)



写真2 かわらけ

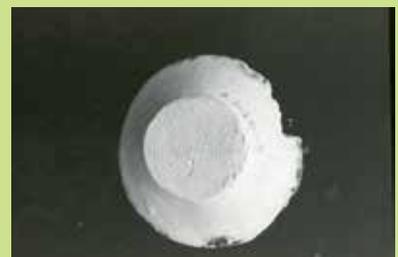


写真3 かわらけ「1-24-9」の注記

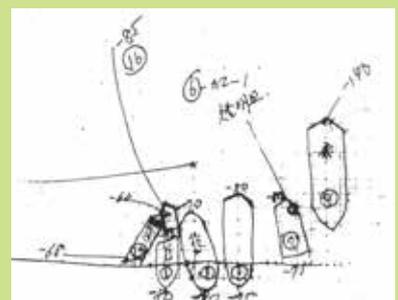


図1 『町史』19頁下部の図より抜粋

久喜市デジタルアーカイブに鷲宮神社の文化財が追加されました。

久喜市立図書館が運営している久喜市デジタルアーカイブは、久喜市の郷土資料をデジタル化し、インターネット上で公開しています。これまでに、市指定文化財の島田家文書、郷土の偉人である中島撫山の関係資料を公開していますが、今回新たに鷲宮神社が所蔵していた県指定・市指定文化財の一部を公開しました。鎌倉時代に作られた銅製の鏡をはじめ、中世の古文書や近世・近代の境内絵図などが手軽に細部まで見ることが出来ます。

久喜市デジタルアーカイブのページ⇒



令和5年度「古文書学習会」参加者募集

場 所	郷土資料館視聴覚ホール	定 員	28人(申込順)
日 時	5月19日、6月2日・16日、7月7日・21日、 9月15日、10月6日・20日、11月17日、 12月1日、15日 (全11回) 各金曜日 14時～16時	費 用	テキスト代として実費
講 師	久喜市文化財保護審議委員 林 貴史 氏	申 込	令和5年4月15日(金) 10時00分から
対 象	市内在住・在勤・在学者および 郷土資料館ボランティア	申込方法	郷土資料館の窓口へ直接か、 電話でお申込みください。



電車で

- 東武伊勢崎線 鷲宮駅下車 徒歩 15分
- JR宇都宮線 東鷲宮駅下車「豊野コミュニティセンター」
行きバス「図書館入口」下車 徒歩 2分

自動車で

- 東北自動車道 加須インターから 10分
久喜インターから 25分

久喜市立郷土資料館だより

笛の音

第15号

発行 令和5年(2023)3月31日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷲宮 5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

URL <http://www.city.kuki.lg.jp/>

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 月曜日(祝日除く)、年末年始、
祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

※有料の特別展を開催する場合があります

